

わかりやすい機関紙文章は

キーワードから逆三角形に 主語と述語を近づける



左：写真の撮り方コースの3人を逆取材した同コースの瀬戸達也さん（JAM九州・山口・ミツミュニオン）撮影
右：写真の撮り方コースに参加した沖村あかりさん（JAM山陽・シスメックスユニオン）が撮影した安河内賢弘会長の模擬記者会見

10月31日～11月2日、東京都港区のJAM本部で元新聞記者など5人を講師として招聘し「第25回広報セミナー」を開催した。

基礎講座「文書の書き方」では、ジャーナリストの高木和男講師は機関紙文章は最重要項目（キーワード）から書く逆三角形の原稿スタイル、前文（リード文）の重要性、5W1Hを意識することを重点に、さらに、「主語と述語を近づける」と読者はわかりやすいと説明した。

見出しは、前文を要約したもので、できるだけ無駄や助詞をそいでコンパクトに一番伝えたいことを盛り込むのがベストであるとも強調した。

実際に発行された機関紙JAMや単組発行の機関紙を題材に良い例と悪い例を挙げた。新年号では、執行委員長など代表者の挨拶文が掲載されているにも関わらず、主見出し「謹賀新年」「…謹んで新年のお慶びを申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます…」これは見出しにならない。新年の決意をどう述べたかが見出しになるので悪い例などと辛口でアドバイスした。

写真の撮り方基本講座「写真で語る」は、元朝日新聞社の朝日教之講師から講義を受けた。良い写真とは、①物事を理解するための情報がたくさん詰まっている②撮影者の伝えたいことが明確③心を揺さぶられるシーンが写っている④映像として美しいことが大事である。顔写真の撮り方は、①無地の背景で正面から35～50ミリレンズで撮る②ストロボを天井に当てて撮る「天井バウンズ」が有効③ストロボを発光させずに自然光で撮るのも良い④目をつぶった写真にならないように3枚以上撮るようにと熱弁した。

2日目には、安河内賢弘JAM会長の模擬記者会見を開いた（写真上）。テーマは「春季生活闘争」「10月27日開票されたJAM組織内・愛知14区おたけりえ衆議院議員選挙」「JAM支持政党」。参加者は報道記者並みに質問し「文書の書き方」専門コースでは、記事作成及び添削を受け「A4ニュースの作り方」では、パソコンを用いて一枚のニュースに仕上げた。

参加者は全体で45人。